

第19回設計フォーラム

『3Dモデルデータセット(3D製図)を活用したものづくり

～研究開発からアフターサービスまで～』

開催趣旨

我が国は、これまで主として原材料を輸入し、加工することにより付加価値を与え、品質の高い製品を多く生産してきました。これらの製品の設計・製造を支えているものづくり技術は、高い品質と信頼性、豊かなデザイン性、作業効率の向上による良好な値ごろ感を合わせ持って、高度に発達しています。最近では、3次元CADの活用が広く進められており、ものづくり技術に大きく貢献しています。そして、製品の海外展開、ものづくり拠点の海外進出が進行しており、ものづくりの世界でのグローバル化が進んでいます。

ところで、ものづくりにおいて、幾何公差などに代表されるGPS(Geometrical Product Specifications;製品の幾何特性仕様)は製品の性能だけでなくコストや納期にも関わる重要な情報で、その的確な指示が設計者には絶えず求められます。一方で、3次元CADによって作成された製品モデルデータやデータセットには、標準化された仕様があるとは言いがたい状況もあります。特に、GPS情報は、製品の3Dデータにどのように付加されるかについては、標準化が遅れています。したがって、異なる3次元CAD間あるいは国際間でのデータの互換性が必ずしも保証されていないままで、製造の現場では対人コミュニケーションで補うことで対応している事情もあります。このことが、3次元CADを活用して設計を行う際に、しばしば大きな障壁となり、製造の効率化を下げる要因の一つにもなっております。

そこで、製品の3Dモデルデータセット(ここでは「3D製図」ということにします)を標準化し、それを活用することによって、製品の研究開発から製造および流通後のアフターサービスまで、さらに新しい製品のニーズやシーズの発見も、いかに効率化できるかについて、本設計フォーラムでは考えたいと思います。業界標準を策定され、ものづくりの第一線における事例を述べながら、今後の日本のものづくりのあり方の一例をご紹介します。企業や研究所、学校関係の技術者、技術教育者の方々にとって貴重なフォーラムとなると思います。多数のご参加をお待ちしております。

日時：2012年5月19日(土) 13:00-14:55

会場：慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎

(〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1)

司会：安井位夫(東京工業大学)

時間	題目	内容	講師
13:00 ～13:05	挨拶	日本設計工学会研究調査部会 3D製図の標準化に関する研究調査分科会幹事	国土舘大学 教授 大高敏男
13:05 ～13:35	日本および世界における3D製図標準化の動向	3D製図に関するJIS化およびISOの動向(概要紹介)を解説します。	国土舘大学 教授 大高敏男
13:35 ～14:15	日本における3D製図(単独図)の業界標準について	日本自動車工業会/JAMA/JAPIA)および電子情報技術協会(JEITA)における3D製図(単独図)の標準化への取り組みについてご紹介します。	(社)日本自動車工業会 総務統括部 電子情報システム担当 副グループ長 羽貝正道
14:15 ～14:55	JEITAにおける3D製図(単独図)標準化の取組みと活用事例	電子情報技術協会(JEITA)における3D製図(単独図)の標準化への取組みと活用事例についてご紹介します。	コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社 稲城 正高



キャンパスマップ9番の建物が来往舎です。